

松浦 常夫 教授



【ご挨拶】

科学警察研究所の研究官から大学の教授になって20年、異動当時はまだ先のことと思っていましたが、ついに退職の日が近づいてきました。思えば、実践女子大学へのお話があったのは、当時学長であった飯塚先生の研究室の後任であった垣本先生と日本応用心理学会でお会いしたときで、学部開設の1年半前の秋でした。冬にはその研究室にお伺いして、3人でケーキを食べながらお茶のみ話をしましたが、それが面接だったようです。翌年の夏休みには、当時文学部長だった湯浅先生（現中高校長）と組んで、推薦入試の面接をしました。いかにも大学といった雰囲気、大学への期待が増しました。

大学に移ってからは、自分が学生に戻ったようで、教育や学生との交流に力を入れました。とくに4年生ゼミでは、今では考えられませんが、卒論が近くなると、連日のようにゼミ生を研究室で指導しました。日野から世田谷の自宅までは2時間弱かかるため、家に着くのは9時ころが普通でした。

研究所時代と異なったのは、教育のほかに、学会活動とマスコミへの取材協力です。日本交通心理学会は私のメインな学会で、大学に就職した翌年から3期9年間を事務局長として、その後1期3年を会長として過ごしました。取材は、日野から渋谷に移った後でも、月に1回くらいはありましたが、それは在京の事務局長として交通安全に関するマスコミ対応をしたためです。マスコミ対応の多くは、電話や対面での取材ですが、テレビやラジオでは生放送もありました。一番緊張したのは高齢ドライバーの事故防止をテーマとしたNHKの「日曜討論」です。手配されたタクシーで代々木まで行き、本番まであと20分もないのに、化粧・セット室に連れていかれ、その

後すぐに本番のスタジオにはいりました。簡単なマイクの使い方と1分以内に話し終えることといった指示のあと、すぐに本番が始まりました。

本の執筆も研究所時代にはなかったことです。とくに10年前に渋谷に移ると、学会や大学での役職からだんだん解放され、また通勤時間が1時間弱となり、時間に余裕が出来ました。そのため本を執筆する時間ができました。ただし、振り返ると論文を書くことの引き換えに本を書いていたような気がします。研究は研究所時代で十分だという思いが強かったのかもしれません。

最後になりましたが、皆さまのおかげで素晴らしい20年間を過ごさせて頂きました。心からの御礼を申し上げます

【略歴】

1954年1月 静岡県生まれ
1974年3月 東京大学文科Ⅲ類 入学
1978年3月 東京大学教育学部教育心理学科 卒業
1978年4月 警察庁科学警察研究所 交通部交通安全研究室 研究員
1986年7月 イギリス交通省交通運輸研究所 訪問研究員（科学技術庁長期在外研究員1年間）
1990年4月 警察庁科学警察研究所 交通部交通安全研究室 主任研究官
1992年3月 警察庁交通局交通企画課 専門官（出向2年間）
2001年12月 大阪大学 博士（人間科学）
2002年4月 自動車安全運転センター調査研究課 課長（出向2年間）
2004年4月 実践女子大学人間社会学部 教授
2024年3月 実践女子大学 定年退職

【学会活動】

2003年3月 日本応用心理学会 常任理事（6年間）
2014年4月 日本交通心理学会 会長（3年間）

【社会活動 現在継続中のもの】

全日本指定自動車教習所協会 理事
運行管理者試験センター 理事
全日本交通安全協会 二輪車安全運転推進委員
日本交通管理技術協会 運転シミュレータ試験審査委員
東京都医師会 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員

【著書 単著】

初心運転者の心理学（企業開発センター交通問題研究室，2005）
交通事故防止のヒント：統計データが語る交通事故防止のヒント（東京法令出版，2014）
高齢ドライバーの安全心理学（東京大学出版会，2017；国際交通安全学会賞 著作部門）
歩行者事故はなぜ起きるのか（東京大学出版会，2020）

高齢ドライバーの意識革命：安全ゆとり運転で事故防止（福村出版，2022；日本応用心理学会斎藤勇賞）

【著書 編著、共著】

交通心理学入門（共編，企業開発センター交通問題研究室，2017）

シリーズ心理学と仕事 18 交通心理学（編著，北大路書房，2017）

うさぎのおめめ おしえて じどうしゃくん！（共著，パイ インターナショナル，2022）

【著書 Book Chapter 単著】

Driving attitudes and skills as a function of experience. In: von Holst, H., Nygren, Å., Andersson, Å.E. (eds) Transportation, Traffic Safety and Health — Human Behavior. Springer, Berlin, Heidelberg. (2000)

Older drivers risky and compensatory driving: Development of a safe driving workbook for older drivers. In Traffic psychology: An international perspective (pp. 87-113). Nova Science Publishers. (2011)

older drivers' reasons for continuing to drive. In Advances in Traffic Psychology (pp. 217-230). CRC Press. (2019)

Effects of elderly people's walking difficulty on concerns and anxiety while walking on roads. In Pedestrians, Urban Spaces and Health (pp. 214-218). CRC Press. (2020)

【論文 主な単著・筆頭著者】

S D法により測定された態度の感情成分と認知成分の一貫性と行動予測. 心理学研究, 54 (3), 174-181. (1983)

運転環境の危険性と危険回避可能性からみた高齢運転者事故の特徴. 交通心理学研究, 7 (1), 1-11. (1991)

Trends in fatal accidents in Japan. IATSS Research, 18 (1), 31-39. (1994)

初心運転者の自己評価に基づく免許取得後5年間の運転変化. 応用心理学研究, 21 (1), 31-42. (1996)

運転技能の自己評価に見られる過大評価傾向. 心理学評論, 42 (4), 419-437. (1999)

Changes in seatbelt use after licensing: A developmental hypothesis for novice drivers. Transportation Research Part F: Traffic Psychology and Behaviour, 5 (1), 299-311. (2002)

自動車事故における同乗者の影響. 社会心理学研究, 19 (1), 1-10. (2003)

Are young male drivers more overconfident than older male drivers? 応用心理学研究, 30 (2), 79-86. (2005)

Characteristics of Anxiety while Driving and Anxious drivers. 応用心理学研究, 34 英文特集号, 42-53. (2009)

Behaviors of pedestrians on streets with roadside strips. Transportation Research Interdisciplinary Perspectives, 19, 100799. (2023)